

J-DAVID News



Japan Dialysis Active Vitamin D Research Group



3.11の東日本大震災から5年になろうという2月末、梅の花が咲いていました。季節は巡り、気付かぬ間に時間が経っていきます。ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹先生は、前立腺がんで体調が悪い中、第4回科学者京都会議に車いすで出席し核廃絶を訴え、その後亡くなられました。「一日、生きることは、一步、進むことでありたい」と言われたそうです。さ〜て、今回は湘南鎌倉総合病院の大竹 剛靖先生からメッセージをいただきました。

世話人・幹事からのメッセージ

「医学臨床研究について思うこと」

湘南鎌倉総合病院 腎臓病総合医療センター
大竹 剛靖 先生

私が研修医として腎臓病診療を学び始めた頃には、報告されている論文や症例報告を参考にして、オーベンの先生方にお伺いしながら、1つ1つ経験値を上げて診療を行ってきました。医師になった際には「有学」を心において、細かく患者を診療するように努めてきましたが、細かく診れば診るほど疾患の程度や合併症が1人1人違うので、1人として同じ症例はなく、とまどうことばかりでした。ですから、今でもそうですが、患者から身をもって教わるのがとても多くあります。ただし、独りよがりの治療にならないように、体系だった治療のよりどころとなるしっかりした根拠を自分に対するエクスキューズとして求めてきたように思います。

人の体を自然科学で解明し、すべてを理解しようとしても到底できることはありません。将来にわたり、多くの時代を経ても人体の精緻なしくみをすべて解明す

ることはできないのではないかと思います。医学にはわからないことだらけです。しかし、科学的手法を用いて1つ1つを明らかにして行く事で、確実に医学は進歩しています。科学的な事実の検証で積み重ねられてきた医学と、目の前の患者への医療の2つを上手に両立させながら、これからも進んで行きたいと思えます。

基礎医学的な検討が必要な事はいうまでもありませんが、臨床医としては臨床研究がもっとも大切であると思っています。その臨床研究とは、研究のための研究でなく、意外性や新規性ばかりを追うのではなく、現場の患者さんたちに直結した、何がいま問題なのか、何を患者は困っているのか、という視点から行われる事が一番大事だと思います。私の病院の後輩医師たちにも、常にこの視点を持って患者診療にあたるように指導しています。透析患者さんの生命予後は種々の治療を行っても未だ満足はいく十分な成果は出ていません。透析現場から発信されるJ-DAVIDの成果に大いに期待しております。



J-DAVID事務局からのご挨拶

「事務局からのメッセージ」

J-DAVID研究会事務局
庄司 哲雄

今回は4つのご連絡がございます。

第1のご連絡は、J-DAVID試験のMethod論文が日本透析医学会のOpen Access JournalであるRenal Replacement Therapy (RRT)誌に掲載されることになりました。あとわずかに未回収の症例報告書がありますので、データ回収とデータクリーニングを進めてまいります。

第2は、5月13～14日にイベント評価委員会が開催されます。できればこれを最後にできるよう、未提出のイ

ベント報告書がありましたら大至急ご提出いただきますよう、お願いいたします。

第3はJSDT学術集会の6月11日(土)早朝にJ-DAVID世話人・幹事会を開催予定です。可能でありましたら出席いただきますよう、よろしくお願いたします。

そして第4は、地球に帰還する宇宙船J-DAVID号の「大気圏突入」です。最終段階で大事故にならないように慎重に進めてまいります。そのため、しばらくJ-DAVID Newsは休刊とさせていただきます。大気圏を無事突破しましたら、再びご挨拶申し上げます。J-DAVID試験をこれまで支えていただきましてありがとうございます。また、もう少しの間、引き続き応援いただきますよう、心からお願い申し上げます。



最新進捗状況

進捗状況を報告いたします。(2月26日現在)

症例報告書回収状況報告

	観察開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目
前月	976	938	924	880	845	805	766	719	685	649
今月 (前月比)	976	941 (+3)	927 (+3)	887 (+7)	855 (+10)	813 (+8)	774 (+8)	735 (+16)	700 (+15)	665 (+16)

内容確認書(クエリー)回収状況報

	開始時	3ヶ月目	6ヶ月目	12ヶ月目	18ヶ月目	24ヶ月目	30ヶ月目	36ヶ月目	42ヶ月目	48ヶ月目	コンプライアンス	中止時	脱落基準	SAE(イベント含む)	総数
発行	1137	831	671	694	680	619	632	505	455	497	1691	212	32	256	8912
回収	1137	811	651	659	634	571	578	457	405	431	1599	206	30	253	8422
回収率(%)	100.0	97.6	97.0	95.0	93.2	92.2	91.5	90.5	89.0	86.7	94.6	97.2	93.8	98.8	94.5

J-DAVID事務局からのお知らせ



共同研究費(2015年分)のご請求を締め切りました

「共同研究費 振込請求書(2015年分)」のご請求は2月末日をもって締め切りました。ご請求書に基づき、共同研究費を3月末までにご指定の口座にお振り込みいたします。



J-DAVIDデータセンターからのお知らせ

症例報告書の回収も終盤を迎え、先生方のご協力に厚く御礼申し上げます。データクリーニング(問合せなどの作業)が遅れ気味で、今しばらく問合せ確認票をお送りし、ご施設にて確認していただくことがあると思いますが、引き続きご協力お願い申し上げます。

最近の文献から

大量ビタミンD投与は耐糖能異常症例のβ細胞機能、インスリン感受性、血糖ホメオスタシスに対して効果なし:ランダム化比較試験

No Effect of High-Dose Vitamin D Treatment on beta-Cell Function, Insulin Sensitivity, or Glucose Homeostasis in Subjects with Abnormal Glucose Tolerance: A Randomized Clinical Trial

Wagner H, et al. Diabetes Care 39: 345-352, 2016

【ポイント】対象は44人のprediabetesあるいは食事治療中の2型糖尿病患者で、週1回30,000単位のビタミンD3を8週間投与し、OGTT、HbA1c、グルコースクランプ法による各種パラメータをプラセボ群と比較した。

【詳しくは】<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26786573>

編集・発行: J-DAVID研究会事務局
〒545-8585大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学 内
電話 06-6645-3806 FAX 06-6645-3808
J-DAVID試験データセンター
電話 06-6645-3443 FAX 06-6646-3588

J-DAVIDのホームページ
<http://j-david.info/>